

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

ピアノ演奏や合唱団の伴奏、学校の音楽教師の経験や教科書教材の作編曲、読譜指導等の実務経験を生かして、「音楽実技Ⅰ」と同様、レベルに応じたピアノの個人レッスン（45分）と合同授業を交互に行います。クラス授業（45分）では、保育・教育現場で扱う頻度の高い歌唱曲の歌唱指導法、コードによる伴奏法、身体表現を伴う曲、手遊び曲、クリスマスソングを学びます。その他、記譜法を学び伴奏譜が書けるようにします。個人レッスンでは弾き歌いの曲の学びと「音楽実技Ⅰ」の基礎をさらに深め、保育・教育現場で役立つ音楽実技の能力を高めます。

授業計画

第 1 回	(クラス授業) ガイダンス、夏休み課題 (実習用の曲) (個人レッスン) 個々の学生の進度に応じたピアノの個人レッスン	
第 2 回	(クラス授業) 幼児の発達と音楽、手遊び、わらべうた、7th コード	(個人レッスン)
第 3 回	(クラス授業) 「ぶんぶんぶん」の全調課題演習	(個人レッスン)
第 4 回	(クラス授業) 夏休み課題「ぶんぶんぶん」の全調課題テスト	(個人レッスン)
第 5 回	(クラス授業) 「動き」を伴う音楽活動	(個人レッスン)
第 6 回	(クラス授業) コードネーム (m) による伴奏、歌唱曲の演習	(個人レッスン)
第 7 回	中間実技テスト、手遊び曲、大譜表伴奏譜の記譜法	
第 8 回	(クラス授業) 手遊び曲、大譜表伴奏譜の記譜法 (課題提出)	(個人レッスン)
第 9 回	(クラス授業) クリスマスソングの演習	(個人レッスン)
第 10 回	(クラス授業) クリスマスソングの仕上げ	(個人レッスン)
第 11 回	(クラス授業) I, IV, V, V ₇ の伴奏による「きらきら星」全調課題の演習	(個人レッスン)
第 12 回	(クラス授業) 「きらきら星」全調課題のテスト	(個人レッスン)
第 13 回	(クラス授業) コードネーム (m) による伴奏、歌唱曲の演習	(個人レッスン)
第 14 回	(クラス授業) コード伴奏 (m, aug, dim) による伴奏、歌唱曲の演習	(個人レッスン)
第 15 回	(クラス授業) I, IV, V, V ₇ の和音による伴奏、歌唱曲への応用	(個人レッスン)
第 16 回	期末実技試験	

到達目標

「音楽実技Ⅰ」をさらに深め、保育実習や保育現場での実践に対応できるよう、扱う頻度の高い歌唱曲の歌唱、伴奏を通して、音楽的で感性豊かな表現力を高めるとともに、教材研究を行い、個々の教材を保育の様々な活動にどのように広げていくかを考えます。今期は、「ぶんぶんぶん」「きらきら星」の全調の伴奏および弾き歌い、m, aug, dim の和音と伴奏をマスターします。

履修上の注意

幼稚園免許取得に向けた「教育実習Ⅱ」の派遣のための要件科目です。学生の進度によりシラバスの内容が前後することもあります。個人レッスンでは夏休み課題の実習用の曲の合格が、またクラス授業では「ぶんぶんぶん」I, V、「きらきら星」I, IV, V, V₇ の伴奏の全調課題の合格が必須です。I に引き続き、すべての授業に出席することが大切です。「クラス授業」もしくは「個人レッスン」のどちらかを休むとその日は欠席となります。また、遅刻3回で欠席1回とします。個人レッスンはグループ全員で受講しましょう。

予習・復習

練習では必ず目標を立て、そのつど、どこまでできたか確認しましょう。練習してうまくいかないところが現在の自分の課題です。それをどのように克服したらよいかを先生に相談しましょう。積極的に学ぶことが大切です。実習や就職してから必要とされる音楽的能力や指導力を身につけるには、日々音楽に向き合い、考え、向上していく構えを身につけることが大切です。そのため、毎日欠かさず練習しましょう。

評価方法

授業の参加状況・授業態度 (20%)、全調課題 (30%)、実技テスト (40%)、提出物 (10%) を総合して評価する。

テキスト

教科書名：『最新幼児の音楽教育—幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導—』

出版社名：朝日出版社

I S B N : 978-4-255-15627-9

プリント配布、個人レッスンは「音楽実技Ⅰ」から継続して『大人のためのピアノ教本』（ドレミ楽譜）を使用し、進度に応じ授業内で教材を決定する。